

〇〇〇立〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇(農業)

1 はじめに

千葉県教育委員会による学校教育指導の指針には4つの重点目標があり、その一つに「安全で開かれた学校づくり」をすすめることがあげられている。具体的には、家庭・地域社会との連携を深め、地域に開かれた教育を推進することにより、信頼される学校づくりに努めることがあげられている。特に専門高校においては進路を地元を求める傾向が強いため地域とのつながりは重要なテーマであり、地域の信頼を得て共生していくことが大切な課題である。

また、中央教育審議会初等中等教育局分科会教育課程部会産業教育専門部会報告では、「専門高校における職業教育の改善の方向性」のなかで、専門高校へ期待することとして、コミュニケーション能力・協調性の向上、地域産業・地域社会の理解、課題を探求し解決する力があげられている。

このような中、千葉県立 高等学校では17年度から19年度の3年間、職業系専門高校の教育機能活用推進プランの研究指定を受け、「 グリーンカレッジ」という一般の方を対象とした農業体験講座を実践してきた。地域の方々に農場を開放し、さまざまな年代の方が農場を訪れる開かれた農場を目指し、生徒と一般の方々が一緒に実習を行っている。

また、千葉県立 高等学校では17年度から18年度までの2年間、「みんなの専門高校プロジェクト推進事業」のなかで、駅前商店街活性化事業に取り組み、生徒が学校で栽培した農産物や加工品を茂原駅前商店街のアンテナショップで販売した。

こうした事業の取組に見られるように、生徒が地域の方々と共に実習を行ったり、生徒が地域に出かけてお客とふれあう教育活動は、専門高校へ期待されることの一つである。この活動により生徒のコミュニケーション能力や課題に対する問題解決能力を高めるには大変効果的であると思われる。

また、科目「課題研究」の目標は「農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習をとおして、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。」である。そこで、科目「課題研究」を駅前商店街活性事業と連携させて展開し、その効果的な指導方法を探るとともに、具体的な展開事例とその効果について検討するために本主題を設定した。

2 研究方法

生徒一人一人の関心・意欲・態度を高めるとともに、地域の方々とのコミュニケーション能力を高め、地域社会への理解を深め、課題解決能力を高められるよう指導方法を検討する。そのために、次の項目を設定し、授業の実践と評価を行い、その成果を考察する研究に取り組むことにした。また、この授業をとおして生徒の意識の変化をアンケートにより分析し、生徒への効果的な指導方法を検討する。

(1) 高等学校における「 グリーンカレッジ」の実施概要と評価

- (2) 高等学校生産技術科の概要と目標
- (3) 高等学校における「駅前商店街の活性化事業」の実施概要と評価
- (4) アンケート結果及び成果
- (5) シラバスと学習指導案の具体例

3 研究計画

平成18年	4月	研究計画の立案
	5月～7月	生徒の意識調査1回目，授業展開
	9月～2月	生徒・受講生の意識調査2回目
	3月	授業内容の反省，18年度のまとめ
平成19年	4月～10月	授業実践，評価，反省
	11月～12月	研究のまとめ

4 研究結果 高等学校における科目「総合実習」と「グリーンカレッジ」を連携させた取組

(1) 「グリーンカレッジ」の目的

生徒が各講座にリトルティーチャーまたは講師補助として参加することで，学んだ学習内容の確実な定着を図り，また受講生へ実技指導をすることで生徒の指導性を高めることを目的とする。また，地域の方々を農場へ受入れ，異年代とふれあうことにより，相互理解とコミュニケーションを深め，思いやりをもった豊かな心を育てる。

(2) 「グリーンカレッジ」の概要

平日たっぷり園芸コースと名付け，生産技術科2年生と一緒に科目「総合実習」5・6限（火曜日）にて中正農場で体験学習をした。応募者9名のところ抽選により受講生は4名となった。園芸（野菜・果樹・草花を週替わり）に関する実習を生徒と共に学び，1年間の実習をとおして，種まきから収穫までの一貫した栽培体系を学ぶことができる。各部門の実施内容は表1～3を参照。

表1 果樹部門の実施内容 担当職員2名 生徒8名

実施日	テーマ	内容
5 / 30	キウイフルーツ管理	キウイフルーツの摘果
6 / 20	リンゴの管理	品種ふじの袋かけ
9 / 12	ナシの収穫	収穫適期の判定方法
10 / 10	苗木植付け	苗木の植付け方法
10 / 31	キウイフルーツ収穫	キウイフルーツの収穫判断と収穫
11 / 21	キウイフルーツ収穫	同上
1 / 16	剪定1回目	カキ・キウイフルーツ・ブドウの剪定
1 / 23	剪定2回目	同上
2 / 20	繁殖	接ぎ木や挿し木・芽接ぎの方法

表2 野菜部門の実施内容 担当職員2名 生徒7名

実施日	テーマ	内容
4 / 18	夏野菜の植付け	トウモロコシの種まき，肥料の種類
5 / 9	メロンの管理	露地メロンの誘引，整枝
6 / 6	メロンの管理	露地メロンの芽かき，マット敷き，整枝
6 / 27	夏野菜の収穫	トウモロコシのカラス対策，メロンの糖度測定
9 / 19	秋野菜の植付け	ダイコンの種まきと間引き
10 / 17	秋野菜の収穫	ニンジンの収穫及び調整
11 / 7	秋野菜の収穫	ニンジンの収穫及び調整
11 / 28	秋野菜の収穫	ダイコンの洗浄と出荷準備
1 / 30	用土作り	育苗用土の準備，モミガラくん炭作り

表3 草花部門の実施内容 担当職員2名 生徒8名

実施日	テーマ	内容
4 / 2 5	春花壇苗管理	マリーゴールド苗の移植
5 / 1 6	用土調整	鉢物用土作り, 蒸気消毒
6 / 1 3	シクラメンの鉢替え	購入苗の鉢替え
9 / 5	シクラメンの鉢替え	仕上げ鉢(6号)への鉢替え
10 / 3	パンジー苗管理	化成肥料の追肥
10 / 2 4	パンジー花壇作成	パンジーの植付, シクラメンの葉組み
11 / 1 4	シクラメン出荷前調整	シクラメンの花がら除去
12 / 5	冬鉢花管理	プリムラポリアンサの出荷前調整
12 / 1 3	草花の種まき	サルビア・ペチュニア・ペゴニアの種まき

(3) 生徒へのアンケート結果および考察

生徒向けアンケート(生産技術科2年36名対象)は講座の始まった6月と終了時の2月に実施して生徒の変化を調査した。アンケート内容と結果は次のとおりである。

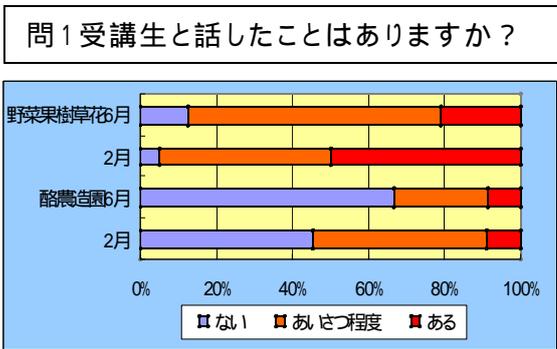


図1

<考察> 野菜・果樹・草花の生徒は受講生と実習を行うグループであり, 講座の始まった6月と終了時の2月を比較すると「あいさつ程度」が70%程度だったが, 「ある」が50%に増えその内容も「作業内容」「世間話」等へ会話の内容が深化していることがわかる。しかし, 酪農造園の生徒は受講生と実習をしていないので話をしたことの無い生徒が2月でも多いことがわかる。(図1)

問2 グリーンカレッジの受講生と実習を行い自分が変わったと思うことがありますか。
 服装や態度がよくなったと思いますか。
 自分の励みになりしっかり実習をやるようになりましたか。

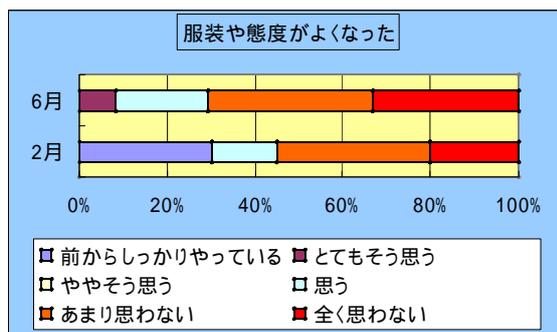


図2

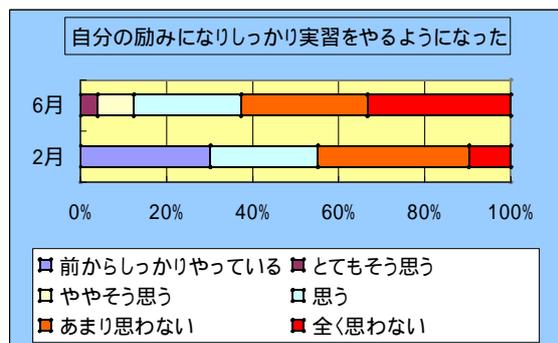


図3

<考察> 受講生と実習をするグループの生徒を対象に調査した。受講生との実習が始まった6月は「あまり思わない」「全く思わない」を合わせて60～70%の生徒は受講生がいることで特に変わることはないという消極的な回答が見られた。しかし、2月には消極的な回答が50%となり、わずか1年間の実習にもかかわらず生徒の成長が伺える結果となった。(図2・3)



写真1 談笑しながら実習する生徒と受講生 写真2 生徒が受講生に整枝方法を指導

(4) 「グリーンカレッジ」の評価

授業に一般の方が参加する当事業は、生徒・受講生・職員にとって初めての経験であり、生徒がどのような反応を示すか不安もあった。しかし、該当クラスの生徒が素直であり、また、受講生の方々も本校生徒を理解しようとして努めていただいたので良好な関係が築けたと思われる。目的の一つである生徒のコミュニケーション能力の向上に関しては、アンケートから徐々にではあるが実習・休憩時間のあらゆる場面で醸成されていると思われる。

(写真1)

職員にとっては、受講生を受け入れることで外部評価の機会が増えることになり、農場環境・農産物の質の向上はもちろん、授業の質も意識した展開を要求されることで改善改良の良い機会となっている。

(5) 「グリーンカレッジ」の今後の課題

生徒は2年生になって専門分野を選択し学習を始めたばかりであり、多くの生徒は受講生に教えるまでの知識や技術が身に付いていない段階である。さらに、授業形式も生徒と受講生に実習内容を説明し、その後一斉に実習を展開する形式なので、生徒が受講生に教える力(指導性)を高めるという目的は達成できていない。(写真2)

改善策としては、3年生の授業と連動させた講座を展開することで、これらの課題はある程度解決できると思われるので実施時間数や曜日の検討が必要である。さらに、生徒に事前学習の時間を確保し、生徒が受講生に説明する形式の授業を展開することにより、生徒は学習内容の定着が図られ指導性も発揮できると期待される。

また、2学期以降は生徒が授業開始時間に遅れたり緊張感にかける場面もあった。生徒にはぜひとも受講生の実習に取り組む意欲と熱意を感じ取ってもらいたい。そして、学ぶこと、知ることの楽しさを受講生と共感できることを今後期待したい。

生徒の感想

- * 私も草花のことはよくわからなかったけれど実習を一緒にやってくれてありがとうございました。これからも頑張ってください。
- * ダイコンを洗うときは冷たかったけれどいっぱい洗ってくれてたいへんでした。学園祭でも販売を手伝ってくれてありがとうございました。

5 高等学校生産技術科の概要と目標

生産技術科では、1年生の「総合実習」(2単位)において5部門(野菜・果樹・草花・畜産・植物バイオテクノロジー)でローテーション学習を実施している。

2年生以降は、生徒の興味・関心、進路希望に対応して、動物(畜産)および園芸(野菜・果樹・草花)のコース選択を行っている。また、3年生では2年生での専門選択で学習した内容を発展させる理由から「課題研究」(3単位)を専門選択と連動させ4部門で展開している。(表4 教育課程参照)

表4 教育課程 生産技術科園芸コース(専門科目のみ)

教科	科目	標準 単位数	1年	2年	3年	単位数 合計	備 考
農業	農業科学基礎	2～6	4	2		6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合実習は2・3学年時間割外1時間を含む ・ 農業情報処理で情報Aを代替する ・ 自由選択科目
	課題研究	2～6			3	3	
	総合実習	4～10	2	3	3	8	
	農業情報処理	2～6	2	2		4	
	農業経営	2～6		2	2	4	
	植物バイオテクノロジー	2～6		2		2	
	生物活用	2～6		2	2	2～4	
	野菜	4～8		4	4	0～8	
	果樹	4～8		4	4	0～8	
	草花	4～8		4	4	0～8	
	フラワーデザイン	4～8			2	0～2	
	農業機械	2～6			2	0～2	
	植物バイオテクノロジー	2～6			2	0～2	
				計	39～41		

6 研究結果 高等学校における科目「課題研究」と「駅前商店街の活性化事業」を連携させた取組

(1) 目的

高等学校における「グリーンカレッジ」では2年生と受講生が実習を行った。しかし2年生では専門的な知識・理解が充分ではなく、生徒が受講生に教えるといった指導的な役割は発揮できなかった。そこで、高等学校では3年生の科目「課題研究」と当事業を連携することにした。その理由は2年生において専門選択を学習しているので、生徒は農産物等に関する知識や栽培経験があり自信を持って販売や商品説明、栽培のアドバイスができると考えたからである。農産物等の販売をとおして、生徒のコミュニケーション能力・協調性を高め、地域産業・地域社会への理解を深め、課題を探究し解決する力を高めるために課題研究で取り組むことにした。

(2) 駅前商店街活性化事業の概要

ア 本校から約2km離れた茂原駅前商店街と連携し、商店街駐車場に新たに新設されたイベント用の建物をアンテナショップとして活用し、学校の農産物・加工品等を販売する。そして学校をより理解してもらい地域との結びつきを深めるとともに商店街の活性化を図る。

イ 対象生徒は生産技術科3年生の各専門選択から希望者計11名で実施した。

ウ 授業時間は金曜日の科目「課題研究」(4～6限)において次のように展開した。

4限 - - - 11:45～12:35 販売物準備

5・6限 - - 13:20～14:20 移動・販売

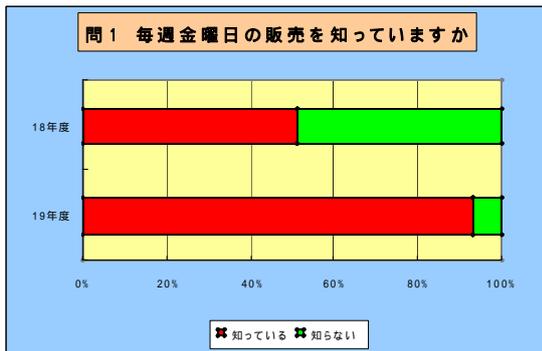
14:20～15:10 移動・会計・自己評価

エ 生徒移動・販売物の運搬は学校のマイクロバス・トラックを利用した。

オ 販売回数は1学期7回・2学期9回・3学期2回の合計18回を予定している。来客数は30～45人程度で、平均は38人であった。(10月末現在)

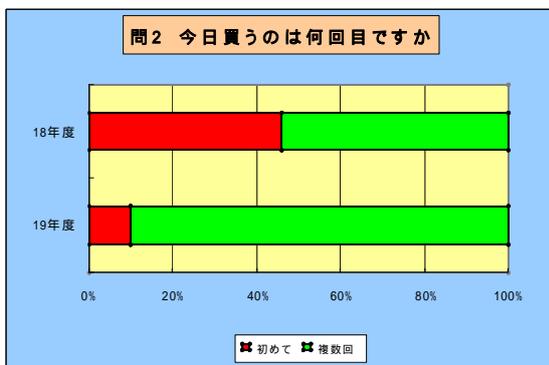
(3) お客へのアンケート結果および考察

農産物等を購入するお客にアンケートを実施し意見や感想をいただき、18年度と19年度を比較してみた。調査数は18年度が62名、19年度は58名を対象に実施した。(図4～8)



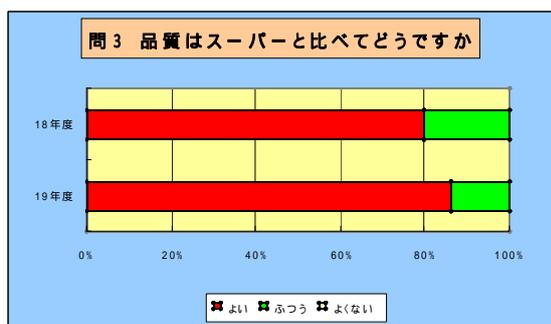
考察
18年度の「知っている」が51%に対し、19年度は93%と前年度からの取組が評価され、本校の農産物販売が定着したことのあらわれだと思われる。

図4



考察
複数回購入しているリピーターが約50%を占めており、問1と同様な傾向が見られる。

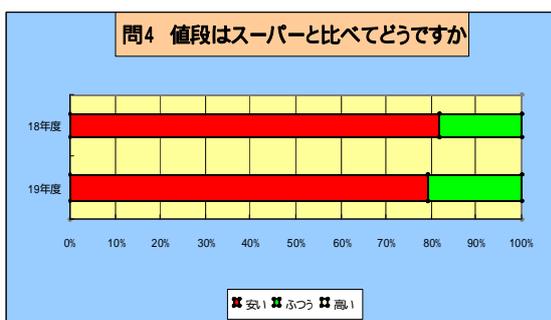
図5



考察

品質はスーパーと比べて良いと回答するお客が2年連続して80%を超えており、本校の農産物の品質が高く評価されていることがわかる。

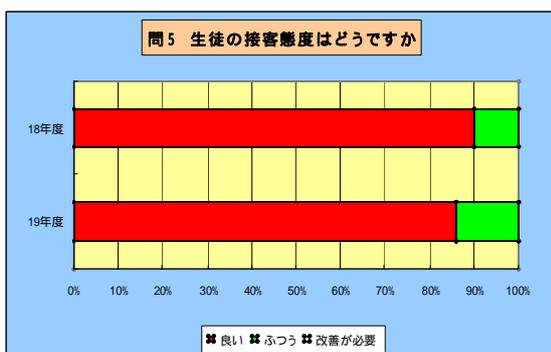
図6



考察

値段はスーパーと比べて安いと回答するお客が多く、価格面からも評価されていることがうかがえる。

図7



考察

接客態度については、生徒の元気で明るい販売の様子が好評で2年間にわたり80%以上の方から良いという評価をいただいている。

図8

その他の意見

- ・生徒が一生懸命に取り組んでいるところに好感が持てる。
- ・草花は育て方のメモなどがあると良い。
- ・販売物の種類がもっと多いと良い。
- ・商品名や価格がわかりにくい。商品の説明があると良い。

(4) 生徒アンケート結果及び考察

駅前商店街での販売を始めて半年が過ぎた9月末にアンケートを実施して、生徒の販売実習の意識変化等を調査した。担当している生徒は農産物販売をとおして様々なことを体験し学び取ってくれたと思われる。(表5)

問1では、服装や態度が良くなったと回答した生徒がほとんどであり、地域に行くことで生徒自ら身だしなみを整える大切さを理解していることがわかる。

問2のお客とのコミュニケーションについては、多くの生徒が販売をとおし経験を重ねることでコミュニケーションができるようになったと回答している。

問3では、言葉使いもTPOに応じた使い分けを意識してマナーや社会常識を身につけていることと思われる。

問4は栽培飼育している農産物がお客の手に渡る過程を体験することで、専門選

扱の実習に対する意識の向上が見て取れる結果であった。

問5は自分の選択分野以外の農産物に対して、知識が不足して十分な商品説明ができなかったことが多かったことがわかる。

問6では、地域に出て行くことで8割近くの生徒が 高校生としての自覚の高まりを意識していることがわかる。

表5 生徒アンケート結果(調査対象11名)

問	質問内容	とても 思う	やや 思う	思う	あまり 思 わない	全く 思 わない
1	販売の時の服装や態度が良くなった	2	3	5	1	0
2	お客とのコミュニケーションができるようになった	0	2	8	1	0
3	言葉使いに気をつけるようになった	2	1	7	1	0
4	販売実習が自分の励みになりしっかりとほかの実習もやるようになった	0	5	5	1	0
5	お客からの商品についての質問に答えられるようになった	0	2	3	4	2
6	普段の生活においても 高校生としての自覚が高まった	0	3	5	2	1

(5) 評価

ア 問題解決能力の向上について

販売を始めた頃は生徒はただ準備された農産物を販売するだけであった。しかし、お客からの農産物に関する質問に答えられないことが多く、また、お客との会話をとおして、農産物に関する知識が必要なことを感じ取ったと思われる。そこで、準備時間にこれから販売する農産物に関する学習を行い、苗物・鉢物には育て方を書いたメモを用意したり、農産物の説明を書いたりするなど自信を持って販売できるようになってきている。

また、お客へのアンケート結果から、お客の目線に立った商品の陳列方法や標示の工夫などの必要性を知り、見やすくわかりやすい標示の改善などの実践をとおして問題解決能力が養成されている。その結果、お客の生徒に対する評価も高くなり、生徒にとってたいへん意義のある駅前商店街販売実習といえる。

イ コミュニケーション能力の向上について

常連のお客が多いことから、販売回数を重ねるにつれお客との距離が近くなってきたようである。お客の顔を思い出し、「トマトがないとあのおばさん残念がるよ。」などとお客を思う気持ちが育ってきている。お互いを思う気持ちが信頼を生み、心と心のコミュニケーションが生まれているようである。

この授業をとおして変化していった生徒の感想をまとめてみた。

- ・お客さんとのコミュニケーションがとれ、たくさんの地域の方々とふれあうことができ、良い経験になった。
- ・日常生活の中で、あまり地域の方々と会話をする機会がないので、私たちにとっては良い経験になった。
- ・卒業後社会人になるが、良い経験になった。この農産物販売をやっているのといないのでは全然違うと思った。
- ・農産物に関する知識が豊富になった。
- ・接客にも慣れ、いろいろな方に対応できるようになった。

- ・販売している時は、茂原駅前商店街がいつもと違う景色に見え楽しく授業ができた。
- ・商店街の活性化に向け商店街の方々の要望をもっと聞かせて欲しい。
- ・ 高校としてできることは何でもチャレンジしたい。
- ・ 高校と商店街の方々がさらに連携を深めることが大切だと思う。
- ・地域との結びつきの大切さなど今まで気づけなかったことに気づくことができた。

ウ 今後の課題

課題研究の授業内における販売実習なので、テスト期間、長期休業中及び学校行事などで不定期開催になることが多い。次回の販売日を掲示したりチラシを配布しているが、年中無休の店舗が多くなってきている状況ではお客の便利性から考えると改善が必要である。また、販売しきれなかった農産物等の処理方法やマイクロバスの運転を含めた安全管理や職員の確保等実施継続には多くの課題がある。



写真3 駅前アンテナショップ



写真4 接客の様子



写真5 手書きの値札

「ちびエコ農産物」ダイコン	認証番号	07A0711001
化学合成農薬の使用回数 千葉県標準栽培技術の1/2以下	栽培管理情報 (10aあたり)	元肥 有機アグレット128 48kg
化学肥料の使用量 千葉県標準栽培技術の1/2以下	追肥 ダイコン専用 40kg	土壌消毒 D-D剤 8/17 20L
	殺虫剤 アディオン 9/25 2000倍	アワ/フレックス 10/9 1000倍
栽培者：千葉県立茂原樟陽高等学校 校長 小澤初男 千葉県茂原市上林283 0475-22-3315	オルトラン 10/19 1000倍	殺菌剤 Zボルドー 11/1 500倍
	品種 耐病総太り	播種 9/13 間引き 9/27
	収穫 11/12～	

写真6 生産情報を標示

(6) シラバス及び学習指導案の具体例

ア シラバスの具体例

農業科〔課題研究〕 シラバス	単位数	3単位
	学科・学年	生産技術科 3学年
1 学習の到達目標等		
学習到達目標	農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習をとおして、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。	
2 学習計画および評価方法等		
(1) 学習計画		
学習内容	月	学習のねらい
・年間計画の作成 ・学校での販売物調査	4	・課題研究の年間計画を作成します。
		備考

1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター・販売物カレンダーの作成 ・商店街との打合せ ・農産物販売開始 ・調査（来客数・売上額・地域の方の意見など） 	<ul style="list-style-type: none"> 5 6 7 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で販売している農産物について調査します。 ・販売している農産物（草花）を図鑑等で調べます。 ・販売物ポスターや販売物カレンダーを作成します。 ・販売所や販売時間等について商店街の方と打合せをします。 ・農産物の販売を開始します。 	
【課題・提出物】 自己評価カード 感想文等				
【1学期の評価方法】 授業に取り組む態度（興味・関心・技能・態度等）及び出席状況等の平常点や課題・提出物などを総合的に見て評価します。				
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物販売 ・調査（来客数・売上額・地域の方の意見など） ・販売方法・調査項目の検討 ・農産物販売・調査 ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 9 10 11 12 	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物を販売しながら調査（来客数・売上額・地域の方の意見）をします。 ・農産物の販売方法や調査項目について検討を加えます。 ・「駅前商店街活性化事業」のプロジェクトについてまとめます。 	
【課題・提出物】 自己評価カード 感想文等				
【2学期の評価方法】 1学期に同じ				
3 期	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめと発表 	<ul style="list-style-type: none"> 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートにまとめるとともに、各自の発表会を行います。 	
【課題・提出物】 自己評価カード 感想文等				
【3学期の評価方法】 1学期に同じ				
【年間の学習状況の評価方法】 第1学期、第2学期及び第3学期の成績を総合して年間の学習成績とします。				
確かな学力を身につけるためのアドバイス		この科目は、自分で課題を見つけその課題を解決する能力と態度を身につける科目です。自分の意見や考えを積極的に発言し、斬新なアイデアと発想をもって取り組んで欲しいと思います。また、自己評価カードは毎回必ず提出して下さい。		
授業を受けるにあたって守ってほしい事項		先生の指示に従って授業を受けるのではなく、まず自分で「何を」「どうしたらよいか」その目的を明確にしてください。次に、その目的を達成する具体的な方法や手順を考えてください。		
(2) 評価の観点、内容及び評価方法				
評価の観点及び内容			評価方法	
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・準備段階から率先して行動し、他の生徒と協力して準備・運営にあたることのできる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・服装等 	
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・お客の立場に立った店の運営に努力することができ、常に意欲を持って創意工夫ができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・計画の内容 ・発表の内容や仕方 ・プロジェクトのまとめ 	
資料活用の技術・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・接客態度が良好で気持ちよくあいさつができる。 ・標示物等を見やすく書くことができる。 ・参考文献等を上手に活用できたか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カード ・参考文献や資料を利用した調査 ・プロジェクトのまとめ 	
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・販売物に対する知識があり、それをお客に対して説明できる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カード ・プロジェクトのまとめ 	

イ 学習指導案の具体例

科目「課題研究」学習指導案				
1	単元	高校生による駅前商店街の活性化事業		
2	単元目標	茂原駅前商店街と連携し，学校の農産物・加工品等を販売し，商店街の活性化を図るとともに地域との結びつきをさらに深める。また，農産物販売をとおして，生徒のコミュニケーション能力・協調性，地域産業・地域社会への理解，課題を探究し解決する能力を高める。		
3	指導計画	事前指導	3時間	
		販売実習	54時間（3時間×18回を予定）	
		事後指導	3時間	
評価の観点< : 関心・意欲・態度， : 思考・判断， : 技能・表現， : 知識・理解>				
		学習内容	学習活動	指導上の留意点および評価
導入	10分	出欠の確認 学習環境の整備 前時の学習内容の確認 本時の目標	・前時の自己評価カードの確認 ・本時の目標の確認	服装を整え，授業に臨む雰囲気を作るとともに，体調の確認を行う。 前時の反省から，本時の目標を各自考えさせ，自己評価カードに記入させる。
展開	40分	販売物の集荷 単価・品質の確認 値札の作成	・各部門から販売物を集荷し，販売物を把握 ・値札等の作成	販売物の栽培方法や保存方法，調理方法等について理解できているか。 値札等が見やすく作成できているか。 販売準備に意欲的に取り組んでいるか。
展開	移動 15分			・マイクロバス内の乗車指導を徹底し事故のないように注意する。
	60分	販売物の陳列 お客の整理誘導 販売	・販売物の種類や数量を考えて陳列する。 ・お客の安全を考えて整理誘導し気持ちよく買い物をしてもらう ・大きな声であいさつする。	・販売物が荷崩れしないよう気をつける。 販売準備への取組やお客への対応が良いか。 お客の立場に立った陳列・接客ができているか。 お客への対応が適切であるか。 お客の質問に対して的確に回答できているか。
	移動 15分			・マイクロバス内の乗車指導を徹底し事故のないように注意する。
まとめ	20分	自己評価 会計処理 次時の予告	・自己評価カードへ記入する。 ・各部門ごとに会計・売上金支払	・次時に注意すべき事柄を確認する。 ・売上金額に誤りがないか確認させる。

7 まとめと今後の課題

(1) まとめ

ア科目「課題研究」において課題を設定し，実践するなかでさまざまな問題点を把握し，その問題点を改善していく過程において，農産物等に関する知識の深化や問題解決に向けた前向きな学習態度の養成など科目の目標を達成できたと考える。

イ「グリーンカレッジ」では生徒が地域の方々と共に実習を行いコミュニケーションを図りながら農業を学ぶ楽しさを共有できた。「駅前商店街活性化事業」では

地域社会での農産物販売をとおして社会常識や接客態度などを学習する生きた実践の場となった。そして、生徒は地域に根ざした高校であることを再認識し地域の活性化に貢献できたことを実感できた。

ウ生徒は農産物の生産に関する学習だけではなく、農産物の流通・販売までを視野に入れた農業を考える良い機会となった。

(2) 今後の課題

ア一過性の農場生産物の販売実習にとどまらず、商店街の協力を得ながら、地域やお客のニーズに応えた商品選別や仕入を生徒に任せた店舗運営も考えていきたい。それにより、科目「課題研究」の目標の一つである生徒の自発的創造的な学習態度を育てることにつながり、生徒の達成感を高めることもできると思われる。結果的に、商店街の活性化につながれば学校・地域の両方にとって望ましい方向へ向かうことになる。

イ学習成果を高めるには、課題研究の実践発表をする機会を設けることが必要である。現在は感想を発表してお互いに評価している段階である。さらに今後は教科「農業情報処理」においてプレゼンテーションソフトの利用技術を習得させ、それを活用した発表を目指したい。一人一人が発表することで専門的な知識と技術の深化、総合化を図ることができるので、ぜひとも実現していきたい。

8 おわりに

今後の学校農場の在り方を考えると、学級減により困難になりつつある農場の有効活用の一つとして、地域との連携が不可欠であると考えている。学校間連携や地域の方々を農場へ受け入れることで空いているほ場を有効利用できる。そして、外部評価の機会と捉え、生徒や職員の意識向上へつながることを期待したい。さらに、学校を地域に開放することにより学校をさらに理解していただき、地域に信頼され愛される学校づくりの基礎となると考える。

また、地域の方々の来校を待つだけでなく、積極的に学校の外へ出て行くことも必要である。HPやパンフレットなども有効な手段であるが、人と人とのふれあいに勝るものはないと考える。高校生の持つ元気とやる気、そして新鮮な農場生産物と確かな品質をアンテナショップを活用してPRすることが、結果的に学校へ地域の目を向けさせることにつながると確信している。このような地域と連携した取組を科目「課題研究」の新たな展開例として定着させていきたい。

最後に、今回教科研究員としてこのような研究の機会をいただき、日頃から研鑽を積むことの大切さを改めて痛感しました。今後も教科研究員としての経験を生かし、より一層努力していきたいと思えます。この2年間御多用の中、懇切丁寧に御指導・御助言くださいました千葉県教育庁教育振興部指導課指導主事 先生をはじめ、教科研究員の先生方並びに御協力いただきました関係の諸先生方に深く感謝申し上げます。

参考文献

- ・高等学校指導要領解説農業編 文部省
- ・新学習指導要領を踏まえた指導と評価の在り方 千葉県教育庁教育振興部指導課
- ・学校教育指導の指針高等学校(19年度) 千葉県教育委員会